

# 簿記・会計

(全問必答)

第1問 次の問い(A～C)に答えよ。〔解答記号  ～  〕(配点 40)

A 高等学校の簿記部に所属する生徒と先生との対話を読み、5ページから7ページの問い(問1～5)に答えよ。なお、( )は各自で考えること。

先生：みなさんが学習している簿記・会計の役割について、考えてみましょう。話を単純化するために、商品売買取引をすべて現金で行っている会社を前提としましょうか。

生徒：会社は、商品を〔 I 〕から受け入れると同時に現金を支払います。その商品を〔 II 〕に払い出すことで、現金を受け取ります。この場合の売上総利益は、現金収入額から現金支出額を差し引いた金額として求められます。

先生：損益計算書の様式を思い出してください。売上総利益は、売り渡した商品の純売上高から  を差し引いて明らかになったはずです。

生徒：うっかり、受け入れた商品がすべて売り切れた状況しか考えていませんでした。期末に在庫があると、現金支出額のままでは正しい  の算定とはいえませんね。

先生：そもそも、損益の計算と現金収支の計算とを混同してはなりません。簿記・会計では、ある時点での現金有高さえ気にしていればよいのではなく、継続的な<sup>(i)</sup>帳簿記録が不可欠でしょう。

決算においては、一会計期間の  を示す損益計算書と期末の ( ) を示す貸借対照表を作成します。株式会社の場合、  が株主をはじめとする企業外部の者に対して会計報告を行う理由はわかりますか？

生徒：それは、(ii)財務諸表の開示によって [エ] の会計責任が果たされるからだと思います。株主のほかには、会社に金銭を貸し付けた金融機関、労働サービスを提供している従業員、税金を徴収する [オ] なども会計報告の相手先ではないでしょうか？

先生：そうですね。会社のまわりには、会社の経済活動によって利益や損失を受ける人々が存在します。財務会計には、(iii)会社と彼らとの間で起こりうる対立を解消する [カ] 機能が期待されています。そして、外部の専門家である [キ] から「[エ] による会計報告は適正である」と証明されることによって、[カ] 機能はより強く果たされるといえるでしょう。

問 1 空欄〔 I 〕および〔 II 〕に当てはまる用語の組合せとして正しいものを、次の解答群のうちから一つ選べ。 [ア]

- [ア] の解答群
- |   |           |            |
|---|-----------|------------|
| ① | 〔 I 〕 得意先 | 〔 II 〕 得意先 |
| ② | 〔 I 〕 得意先 | 〔 II 〕 仕入先 |
| ③ | 〔 I 〕 仕入先 | 〔 II 〕 仕入先 |
| ④ | 〔 I 〕 仕入先 | 〔 II 〕 得意先 |

問 2 [イ] ~ [キ] に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

- [イ] ~ [キ] の解答群
- |           |         |             |
|-----------|---------|-------------|
| ① 債権者     | ② 経理部門  | ③ 経営者       |
| ④ 企業会計審議会 | ⑤ 公認会計士 | ⑥ 国・地方公共団体  |
| ⑦ 総仕入高    | ⑧ 純仕入高  | ⑨ 売上原価      |
| ⑩ 情報提供    | ⑪ 利害調整  | ⑫ キャッシュ・フロー |
| ⑬ 財政状態    | ⑭ 経営成績  |             |

## 簿記・会計

問 3 下線部(i)「帳簿記録」の対象となる簿記上の取引に当てはまらないものを、次の解答群のうちから一つ選べ。 **ク**

**ク** の解答群

- ① 決算に際して、当期の受取利息について未収分が判明した。
- ② 新聞を購読する契約を結び、普通預金口座より支払うことにした。
- ③ 倉庫に保管していた商品が、災害により破損した。
- ④ 借越限度額の範囲内で、当座預金残高を超える小切手を振り出した。

問 4 下線部(ii)「財務諸表の開示」について述べた次の文 a と b の正誤の組合せとして正しいものを、下の解答群のうちから一つ選べ。 **ケ**

a：利害関係者が企業の状況を適切に判断できるよう、必要な会計事実を明瞭に表示しなければならない。

b：信頼しうる会計記録にもとづいている限り、種々の利用目的に資するために異なる形式での作成が認められている。

**ケ** の解答群

- ① a — 正      b — 正
- ② a — 正      b — 誤
- ③ a — 誤      b — 正
- ④ a — 誤      b — 誤

問 5 下線部(iii)「会社と彼らとの間で起こりうる対立」の一因として、当期純利益の額の大小を挙げることができる。次の文 a ~ e のうち、当期純利益の額が変動しうる具体例として適当なものは、 個である。

- a : 消費税に、税抜方式を採用するか税込方式を採用するか。
- b : 当座借越高に、当座借越勘定を用いるか当座勘定を用いるか。
- c : 売掛金の期末残高のうち、いくらが貸し倒れると見積もるか。
- d : 備品の減価償却に、定額法を採用するか定率法を採用するか。
- e : 土地の賃借料について、前払いとするか後払いとするか。

## 簿記・会計

B 個人企業である埼玉商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、事業主が第1期の1月1日に現金¥2,000を元入れして開業した。

資料1は第1期と第2期の資本金勘定を、資料2は2期間にわたる資本金の増減を示している。これらの資料にもとづいて、9ページの問い(問1～3)に答えよ。ただし、引出金勘定は用いていない。なお、金額の単位はすべて千円である。また、( )は各自で考えること。

資料1 各期の資本金勘定

<第1期>

資 本 金			
7/1	現 金 ( )	1/1	サ ( )
12/31	( ) シ ス		
"	次期繰越 ( )		
	( )		( )
	( )		( )

<第2期>

資 本 金			
8/31	仕 入 セ ソ	1/1	前期繰越 1,930
12/31	次期繰越 2,030	4/1	現 金 ( )
	( )	12/31	( ) ( )
	( )		( )

(注) 太字は赤字記入を意味する。

資料2 資本金の増減表

	期首残高	(追加)元入れ	引 出 し	当期純損益	期末残高
第1期	( )	2,000	30	( )	( )
第2期	( )	80	50	70	( )

問 1 資料 1 の サ に当てはまるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

サ の解答群	
① 前期繰越	① 資本金
② 現金	③ 損益

問 2 資料 1 の シ ~ ソ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 3 埼玉商店は、第 3 期の 3 月 15 日に、事業主個人の所得税 ¥ 20 を現金で納付するにあたって、次の仕訳を行った。

(借) 租税公課                      20                      (貸) 現金                      20

しかし、この仕訳は、タ という簿記の前提条件を満たしておらず、埼玉商店の仕訳としては誤りである。タ に当てはまるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

タ の解答群	
① 継続企業	① 会計期間
② 貨幣金額表示	③ 会計単位

## 簿記・会計

C 個人企業である神奈川商店は、商品売買取引をすべて掛けで行っている。1月中のすべての商品売買取引に関して、**資料1**は3分法によって記帳した場合の各勘定を、**資料2**は分記法によって記帳した場合の商品勘定および商品売買益勘定を示している。これらの資料にもとづいて、11ページの問い(問1～3)に答えよ。ただし、神奈川商店は毎月末に決算を行っている。なお、金額の単位はすべて千円である。また、( )は各自で考えること。

**資料1** 3分法による場合の各勘定(損益勘定は省略してある)

売掛金		買掛金	
1/1 前期繰越	140	1/22( )	10
21 売上	510	31 次期繰越	640
	<u>650</u>		<u>650</u>

  

繰越商品		仕入	
1/1 前期繰越 ( )	1/31 仕入 ( )	1/10 仕入	<b>チ</b>
31 仕入 ( )	" 次期繰越	31 次期繰越	600
	<u>400</u>		<u>( )</u>
			<u>( )</u>

  

仕入		売上	
1/9 買掛金	<b>テ</b>	1/22 売掛金 ( )	1/21 売掛金 ( )
31 繰越商品 ( )	1/10 買掛金 ( )	31 繰越商品 ( )	31 損益 ( )
	" 損益 ( )		<u>( )</u>
	<u>( )</u>		<u>( )</u>
			<u>( )</u>

**資料2** 分記法による場合の商品勘定および商品売買益勘定

商品		商品売買益	
1/1 前期繰越 ( )	1/10 買掛金	10	1/21 売掛金
9 買掛金	430	31( )	210
	21 売掛金		<u>210</u>
	31( )		<u>210</u>
	<u>250</u>		
	<u>( )</u>		

(注) 太字は赤字記入を意味する。

問 1 資料 1 の  ~ , 資料 2 の  に当てはまる金額を, 次の解答群のうちから一つずつ選べ。

<input type="text" value="チ"/> ~ <input type="text" value="ト"/> の解答群	
<input type="text" value="チ"/>	( ① 10   ② 30   ③ 50   ④ 70   ⑤ 90 )
<input type="text" value="ツ"/>	( ① 100   ② 150   ③ 200   ④ 250   ⑤ 350 )
<input type="text" value="テ"/>	( ① 230   ② 280   ③ 330   ④ 380   ⑤ 430 )
<input type="text" value="ト"/>	( ① 200   ② 210   ③ 300   ④ 310   ⑤ 510 )

問 2 1 月 22 日の取引に関する説明として正しいものを, 次の解答群のうちから一つ選べ。

<input type="text" value="ナ"/> の解答群	
①	仕入れた商品を返品した。
②	売り渡した商品が返品された。
③	仕入れた商品の値引きを受けた。
④	売り渡した商品の値引きを行った。

問 3 1 月中の売上総利益の金額は, ¥    である。  ~  に当てはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。



## 簿記・会計

**第2問** 兵庫商事株式会社(決算は年1回、決算日は3月31日)は、複合仕訳帳制度を採用しており、普通仕訳帳のほかに現金出納帳、仕入帳、売上帳を特殊仕訳帳として使用している。特殊仕訳帳から総勘定元帳への合計転記は、普通仕訳帳をとおさず、毎月末に行っている。また、補助簿として売掛金元帳、買掛金元帳、商品有高帳を用いている。なお、兵庫商事株式会社はA商品のみの売買を行っており、払出単価の決定は移動平均法による。

兵庫商事株式会社に関する「資料1」～「資料5」にもとづいて、下の問い(問1～3)に答えよ。ただし、金額の単位は、別途指示してある箇所を除き、すべて万円である。なお、( )は各自で考えること。

〔解答記号「ア」～「ハ」〕(配点 30)

問1 「資料1」の「ア」・「イ」に当てはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

「ア」・「イ」の解答群

① 現金	② 買掛金	③ 未払金	④ 前払金
⑤ 社債利息	⑥ 社債償還損	⑦ 株式交付費	⑧ 社債発行費

問2 「資料1」の「エ」～「ケ」, 「資料2」の「コ」～「シ」, 「セ」・「ソ」, 「チ」・「ツ」, 「資料3」の「テ」・「ト」, 「資料4」の「ナ」・「ニ」, 「資料5」の「ヌ」～「ハ」に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問3 「資料1」の「ウ」, 「資料2」の「ス」, 「タ」に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

「ウ」, 「ス」, 「タ」の解答群

① ✓	② 1	③ 2	④ 4
⑤ 21	⑥ 41	⑦ 買1	⑧ 41/4
⑨ 41/売1	⑩ 21/買1		

資料1 ×5年4月中の普通仕訳帳とそこに記帳されるすべての取引

		普通仕訳帳			
×5年		摘要	元 丁	借方	貸方
4	4	(当座預金) 諸口	2	600	
		(資本金)	30		エ オ カ
		( )	31		( )
	"	( )	54	40	
		(当座預金)	2		40
	6	(当座預金)	2	キ ク ケ	
		(社債)	27		キ ク ケ
	"	(ア)	56	20	
		(当座預金)	2		20
	10	(備品)	10	15	
		(イ)	25		15
	27	( )	ウ	30	
		( ) ( )			30

(注) 小書きは省略してある。

4日：新たに株式200株を1株につき¥3で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。なお、1株の払込金額のうち¥1は資本金に計上しないことにした。また、新株発行のための諸費用¥40を小切手を振り出して支払った。

6日：額面総額¥300の社債を、償還期限5年、額面¥100(単位：円)につき¥98(単位：円)の条件で発行し、払込金は当座預金とした。なお、社債発行のための諸費用¥20は、小切手を振り出して支払った。

10日：福井商店より備品¥15を購入し、代金は翌月末に支払うことにした。

27日：大阪商店に対する買掛金の支払いのために、売掛金のある岡山商店あての為替手形¥30を振り出し、岡山商店の引き受けを得て、大阪商店に渡した。

# 簿記・会計

資料 2 × 5 年 4 月中の特殊仕訳帳(すべて)

## 現金出納帳

× 5 年	勘定科目	摘 要	元丁	売掛金	諸 口	× 5 年	勘定科目	摘 要	元丁	買掛金	諸 口
4	2	売 上	愛媛商店	(	コ	4	15	前 払 金	秋田商店	(	10
	18	売 掛 金	愛媛商店	20	ザ		20	仕 入	引取運賃	(	2
	29	受取地代	駐車場代		( )		27	買 掛 金	秋田商店	( )	( )
				20	( )					( )	( )
	30				( )		30			( )	
	"	売 掛 金			( )		"	買 掛 金		( )	
		現 金			( )			現 金		( )	
		前月繰越			( )			次月繰越		( )	
					128						128

## 仕 入 帳

× 5 年	勘定科目	摘 要	元丁	買掛金	諸 口
4	5	買 掛 金	大阪商店	掛 け	( ) ( )
			A 商品 ( ) 個 @ ¥ 21		
	7	買 掛 金	大阪商店	掛け値引き	( ) ( )
			A 商品 3 個 @ ¥ 2		
	20	前 払 金	秋田商店	15 日の内金と相殺、掛け	8 10
		買 掛 金	A 商品 シ 個 @ ¥ 25	買 2	( ) ( )
		現 金	引取運賃は現金払い	ス	( ) ( )
				1 セ ソ	12
	30		買 掛 金	( )	( )
	"		総 仕 入 高	51	115
	"		仕 入 値 引 高	( )	( )
			純 仕 入 高		109

## 売 上 帳

× 5 年	勘定科目	摘 要	元丁	売掛金	諸 口
4	2	現 金	愛媛商店	現 金	( ) ( )
			A 商品 2 個 @ ¥ 30		
	25	売 掛 金	岡山商店	掛 け	売 1 140
			A 商品 4 個 @ ¥ 35		
	28	売 掛 金	岡山商店	掛 け 返 品	売 1 35
			A 商品 1 個 @ ¥ 35		( ) ( )
					( ) ( )
	30		売 掛 金	4	( )
	"		総 売 上 高	41	( )
	"		売 上 返 品 高	夕	( )
			純 売 上 高		1 チ ツ

(注) 太字は赤字記入を意味する。

資料3 ×5年4月末における総勘定元帳(一部)

現 金			買 掛 金					
1			21					
4/1 前期繰越	40	4/30 現金出納帳	テ	ト	4/27 ( )	30	4/1 前期繰越	75
30 現金出納帳	88		30 現金出納帳	( )	30 仕入帳	( )	30 仕入帳	( )
			" 仕入帳	6				

資料4 ×5年4月末における買掛金元帳(すべて)

買 掛 金 元 帳								
大阪商店			秋田商店					
1			2					
4/7 仕入値引き ( )		4/1 前月繰越	25	4/27 現金支払い	70	4/1 前月繰越	ナ	三
27 ( )	30		5 仕入れ	63			20 仕入れ	40

(注) 次月繰越は省略してある。

資料5 ×5年4月中の商品有高帳(一部)

		商 品 有 高 帳						単位:個		
(移動平均法)		(品名) A商品								
×5年	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
4	1 前月繰越	( )	( )	85				5	( )	( )
	2 愛媛商店				( )	又	ネ	( )	( )	51
	5 大阪商店	( )	( )	( )				( )	ノ	ハ

## 簿記・会計

**第3問** 個人企業である福岡商店(決算は年1回、決算日は12月31日)に関する次の資料1～資料5にもとづいて、19ページから20ページの問い(問1～4)に答えよ。ただし、未着商品売買については、販売のつど、その売上原価を仕入勘定へ振り替えている。なお、金額の単位はすべて千円である。また、( )は各自で考えること。〔解答記号 **ア**～**ホ**〕(配点 30)

資料1 ×5年12月23日における残高試算表

残 高 試 算 表			
×5年12月23日			
借 方	元 丁	勘 定 科 目	貸 方
740	(	現 金	金 足
24		現 金 過 不	当 座 預 金
134		受 取 手 形	金 形
340		掛 引 当	金 引 当
250		倒 引 当	金 引 当
300	省	有 価 証 券	6
190		繰 越 商 品	
280		未 着 商 品	
50		前 払	金 品
1,200		備 品 減 価 償 却 累 計 額	( )
( )		土 地	
		支 払 手 形	182
		買 掛 金	788
		借 入 金	800
		資 本 金	1,355
	略	売 上 料	2,370
		受 取 手 数	98
1,426		仕 入 料	
395		給 付 料	
68		消 耗 品 費	
132		支 払 家 賃	
40	)	支 払 利 息	
( )			( )

資料2 ×5年12月24日から31日までのすべての取引

- 24日：本月分の給料¥90の支払いにあたり、所得税額¥3を差し引き、残額を現金で支払った。
- 25日：沖縄商店に注文していた商品¥240につき、取引銀行から荷為替手形の呈示を受けたので、これを引き受け、船荷証券を受け取った。なお、手形金額は、注文の際に支払った内金¥30を差し引いた¥( )である。
- 26日：かねて熊本商店から受け取っていた貨物引換証¥280を、鹿児島商店に¥360で売り渡した。代金は、鹿児島商店が振り出した約束手形で受け取った。
- 27日：さきに受け取っていた大分商店振り出しの約束手形¥300を取引銀行で割り引き、割引料を差し引かれた手取金¥294は当座預金に預け入れた。なお、保証債務について考慮する必要はない。
- 31日：25日に受け取った船荷証券と引き換えに商品を受け取った。なお、引取運賃¥60は現金で支払った。

資料3 ×5年12月31日における決算整理事項等

- (1) 現金過不足について調査したところ、¥( )は買掛金の支払いの記帳もれであったことが判明した。残額は、原因が不明であったので、雑損勘定に振り替えた。
- (2) 期末商品棚卸高は、¥220である。
- (3) 受取手形と売掛金の期末残高に対して、2%の貸し倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は、差額を計上する方法(差額補充法)による。
- (4) 備品は、すべて×3年1月1日に取得したものである。定額法(残存価額は取得原価の10%、耐用年数は8年)で減価償却を行う。
- (5) 有価証券は、売買目的で保有する株式である。決算日の時価は、¥310である。
- (6) 消耗品の未使用分は、¥( )である。
- (7) 家賃は、毎年9月1日に1年分を前払いしている。×5年9月1日の支払い分から家賃の見直しが行われており、見直し前の家賃は1か月あたり¥6であった。
- (8) 借入金は、すべて×4年5月1日に年6%の利息(借入期間は2年、利払日は4月末日と10月末日)で借り入れたものである。

# 簿記・会計

資料4 ×5年12月31日における損益計算書および貸借対照表

## 損益計算書

福岡商店 ×5年1月1日から×5年12月31日まで

費用	金額	収益	金額
( )	1. <b>アイウ</b>	売上高	2. <b>シスセ</b>
給料	( )	受取手数料	98
貸倒引当金繰入	<b>エ</b>	( )	<b>ソタ</b>
減価償却費	<b>オカキ</b>		
消耗品費	42		
支払家賃	<b>クケ</b>		
支払利息	( )		
<b>コ</b>	( )		
雑損	<b>サ</b>		
当期純利益	58		
	2,838		2,838

## 貸借対照表

福岡商店 ×5年12月31日

資産	金額	負債および純資産	金額
現金	<b>チツテ</b>	支払手形	<b>ニヌネ</b>
当座預金	( )	買掛金	769
受取手形 400		借入金	800
貸倒引当金 8	392	未払利息	<b>ノ</b>
売掛金 250		<b>ハ</b>	( )
貸倒引当金 5	245	資本金	1,355
有価証券	310	当期純利益	( )
商品	( )		
消耗品	<b>トナ</b>		
前払金	( )		
前払家賃	( )		
備品 1,200			
減価償却累計額 405	795		
土地	300		
	3,385		3,385

資料5 ×6年1月中の取引と仕訳帳(一部)

6日：預かっていた従業員の所得税¥3を現金で納付した。

		仕 訳 帳		
×6年	摘 要	元 丁	借 方	貸 方
1	1 前期繰越高	✓	3, <input type="text" value="ヒ"/> <input type="text" value="フ"/> <input type="text" value="ヘ"/>	3, <input type="text" value="ヒ"/> <input type="text" value="フ"/> <input type="text" value="ヘ"/>
	6 ( <input type="text" value="ハ"/> )	27	3	
	(現金)	1		3
	従業員の所得税の納付			

問 1  から  にもとづいて、 の  ~  ,  
 ~  に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 2  から  にもとづいて、 の  ,  に  
当てはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

,  の解答群

① 租 税 公 課	④ 発 送 費	⑦ 未 払 税 金
② 手 形 売 却 損	⑤ 所 得 税 預 り 金	⑧ 仮 受 金
③ 有 価 証 券 評 価 損	⑥ 前 受 金	

問 3  の仕訳帳の1行目に×6年1月1日の日付で行われる開始記入の  
金額は、¥3,  である。この記入により、×6年12月31日に作  
成する合計試算表の貸借合計額と仕訳帳の貸借合計額とが一致する。  
 ~  に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。



## 簿記・会計

問 4 資料 5 の仕訳帳に関して、×6年1月1日における再振替仕訳に関する勘定科目の組合せとして正しいものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

木

木

 の解答群

- |  |  |
|--|--|
| ① (借) 支払家賃 ( )<br>(借) 支払利息 ( )<br>(借) 消耗品費 ( ) | (貸) 前払家賃 ( )<br>(貸) 未払利息 ( )<br>(貸) 消耗品 ( )  |
| ② (借) 支払家賃 ( )<br>(借) 未払利息 ( )<br>(借) 消耗品 ( )  | (貸) 前払家賃 ( )<br>(貸) 支払利息 ( )<br>(貸) 消耗品費 ( ) |
| ③ (借) 前払家賃 ( )<br>(借) 支払利息 ( )<br>(借) 消耗品費 ( ) | (貸) 支払家賃 ( )<br>(貸) 未払利息 ( )<br>(貸) 消耗品 ( )  |
| ④ (借) 支払家賃 ( )<br>(借) 未払利息 ( )<br>(借) 消耗品費 ( ) | (貸) 前払家賃 ( )<br>(貸) 支払利息 ( )<br>(貸) 消耗品 ( )  |
| ⑤ (借) 前払家賃 ( )<br>(借) 支払利息 ( )<br>(借) 消耗品 ( )  | (貸) 支払家賃 ( )<br>(貸) 未払利息 ( )<br>(貸) 消耗品費 ( ) |